

鹿屋市立大始良小学校 特別の教育課程の実施状況等について

1 特別の教育課程の概要

本校では、文部科学省教育課程特例校の指定を受け、下記の時数を確保し、英語教育を推進しています。

英語を使って自分の本当の気持ちや考えを伝え合っている姿を最終ゴールに設定し、小学校1年生から児童の興味・関心や理解度に合わせて段階的に指導することで、6年間を通して、総合的にコミュニケーション能力の基礎となる力を育成することを目指しています。

学 年	1年	2年	3年	4年	5年(教科)	6年(教科)	総時数
年間時数	20	20	35	35	70	70	250
使用する教材等	オリジナル	オリジナル	Let's Try!1	Let's Try!2	教科書 My Book	教科書 My Book	

2 本校の教育目標

やさしさとたくましさをもち、進んで学び、自らの可能性を広げていく子どもを育成する。

3 本校の令和2年度英語教育の実践について

(1) 1・2年生の取組

- 英語を楽しく聞いたり、発音したり、全身を使った表現活動を通して英語の音声やリズムなどを楽しむとともに、体験的な活動を通して英語や文化に親しみ、簡単な英語の語句や表現を使って、楽しくコミュニケーションを図ろうとする態度を育んだ。

(2) 3・4年生の取組

- 英語を楽しく聞いたり、発音したり、全身を使った表現活動を通して英語の音声やリズム等に慣れ親しむとともに、体験的な活動を通して英語や文化に親しみ、積極的に英語の語句や表現を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度を育てた。

(3) 5・6年生の取組

- 英語を楽しく聞いたり、発音したり、全身を使った表現活動を通して、英語の音声やリズム等に慣れ親しむことができた。また、身近な場面の中で体験的な活動を通して英語や文化への親しみを深め、英語の語句や表現を十分に活用して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てた。
- 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにした。
- 日常的な英語を聞いたり、話したりするなどの活動を通して英語や外国文化への親しみを深めた。
- 英語の発音やリズムに慣れるとともに英語の語句や表現を活用し、積極的にコミュ

ニケーションを図ろうとする態度を育てた。

- ・ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考にして書くことができるようにした。

(4) 小中一貫教育について

- ・ 中学校の英語担当教諭が来校し、6年生の教室で授業を行った。

(5) 校内研修体制について

- ・ 校内研修で外国語科の研修を行い、研鑽を重ねた。

4 特別の教育課程の実施状況に関する検証結果

(1) 自己評価（児童）の結果から

英語の授業は好きですか。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
好き	60.6%	66.7%	53.1%	41.1%	38.7%	29.2%
どちらかという好き	27.3%	17.5%	28.6%	46.4%	48.4%	29.2%
あまり好きではない	6.1%	8.8%	14.3%	7.1%	6.5%	33.3%
好きではない	6.0%	7.0%	4.0%	5.4%	6.4%	8.3%

(2) 自己評価（教員）の結果から

Q1 1年生からの英語教育の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	思わない
38.5%	38.5%	15.4%	7.6%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。（自由記述、一部抜粋）

- ・ 英語を早く親しむことで、自然と英語を使おうとする態度が育つのではないか。
- ・ 1年生で英語教育を実践しているからといって、コミュニケーションに意欲的という感じはしない。

(1) 保護者評価結果から

Q1 お子さんは、英語の授業が好きですか。

思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	思わない
40.4%	41.1%	15.6%	2.9%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。（自由記述、一部抜粋）

- ・ 早い時期から英語にふれることで外国語などへの関心を高めてほしい。
- ・ 英語に自信が持てるように、苦手意識をもたないようにしてほしい。

- ・ コミュニケーション能力の育成を図ってほしい。

(2) 学校関係者評価結果から

Q1 1年生からの英語教育の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	思わない
87.5%	12.5%	0%	0%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。(自由記述、一部抜粋)

- ・ 早い対応がよい結果をもたらすと思います。
- ・ 英語に慣れ親しむために、1年生から教育することはよいと思う。
- ・ 低学年から英語に親しむことはよいこと。

5 令和3年度取組について

(1) 1・2年生取組

英語の歌やゲームを通して、コミュニケーションを図る楽しさを体験する。また、簡単な挨拶や身の回りの物を表す英語を元気よく言い、英語の音声やリズム等にふれる。

(2) 3・4年生取組

外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、外国語で聞いたり、話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力を高める。また、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図る活動を取り入れる。

(3) 5・6年生取組

聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身につける。また、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養い、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図る活動を取り入れる。

(4) 小中一貫教育について

外国語科、英語科によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語科、英語科による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。

(5) 校内研修体制について

「児童自らが学習し、主体的・対話的で深い学びを展開するためにはどうすればよいか～国語科における話し合い活動の充実を目指して～」を研究テーマに、外国語科の授業実践による検証や各種研修会参加による情報収集等を行っていく。